



タンザニア

BOP層実態調査レポート

- 調査実施日: 2012年10月
- 調査場所: ダルエスサラーム(5つのグループを訪問)

互助会

ダルエスサラーム在住の地方出身者で同郷による互助会を組織している地域がある。主にダルエスサラームから遠く離れた州出身者による組織が多く、近隣州の出身者による組織は少ない。

タボラ州ウランボ県出身者でurambo kureana na kujikana(クレアナ・クジカナグループ)という互助会のメンバーに話を聞いてみた。現在は99人の会員がいる。互助会の目的は会員が困った時に助け合うということで、主に病気と葬式にかかる様々なことについて援助を受けることができる。それ以外では大学の卒業や結婚の際に祝い金が支給される。会費は、入会金がTsh10,000(約500円)で月会費Tsh5,000(約250円)の支払いが必要で、援助を受けるには少なくとも1年間の在籍が必要となる。3ヶ月の会費の滞納で除名となり、もう一度会員になるには滞納分と新たに入会金が必要となる。一年に一回選挙があり役員を決める、役員を二期連続務めることはできない。毎月末に集まりがあり、そこでその月の会計報告や新会員の紹介をする。会員の訃報・結婚・卒業などの近況も報告される。

互助会の主な仕事である葬式の平均的な費用はTsh200万(約10万円)で、互助会からはかかった費用の50%が支給される。葬儀を行う手伝いもしてくれる。死体を冷暗所に運び親族・知人に連絡を取り、棺桶を調達し、死に化粧を施し、墓を掘る手配をして参列者の移動や昼食の用意をする。大病を患った場合にもかかった費用の50%が支給される。ただし、病気については個人差があるためケースごとに役員で話し合いが行われ、相応の額が支給される。国内での長期入院・手術などは50%支給されるが、インドなど海外の病院での治療は上限が設けられる。結婚は平均してTsh100万(約5万円)の祝い金で、卒業は平均してTsh50万(約2.5万円)の祝い金が支給される。

支給額の決定・資金の管理は役員が行うため、役員は強い力を持つことになる。色々と問題が起こりそうだが、実際にはほとんど問題は起こらないという。ほぼ皆が顔見知りで、同じ民族で、同じ言語を話し田舎に帰ればご近所さんである。強い信頼関係で結ばれており悪事を働く者はいない。



イスラム

タンザニアの主な宗教は、キリスト教・イスラム・伝統宗教があり、沿岸部にはムスリム(イスラム教徒)が多く住む。その中でもザンジバル・ペンバ島出身者は、ほぼすべてムスリムで民族も同じなため、彼らにとって宗教が大きい意味で共同体となる。小さい共同体は親族で、基本的に困った時に協力し、助け合うのは親族間で行われる。

ペンバ島出身のムスリムに話を聞いてみた。葬式や病気などで金銭的・肉体的に問題が起こった時はモスクへ行きお祈りをした後、個人で寄付を募ることができる。参拝者一人一人から少額の寄付を集め、親戚や知り合いのつてを使い有力者の連絡先をもらい、後から多少まとまった金額の寄付を受ける。必要な金額も集まる金額も人それぞれだが、葬儀費用や治療費用はほぼ問題なく集まるといふ。食事についてもお祈りが終わった後に事情を説明してその日のご飯代をもらうことは可能であるが、やはりやり過ぎはよく思われない。一地域に数か所のモスクがあり、それを毎日一つずつ回り、働けるにもかかわらず毎日ご飯代を求めるのは可能であるが皆よく思っていない。奨学金もモスクでスポンサーを探すことが可能で、親族・知り合いを通して有力者から資金の援助を受けることができる。最近、ペンバ島の同じ村の出身でダルエスサラーム在住者による互助会を立ち上げた。ダルエスサラームでの生活で困ったときの助け合いもそうだが、主な目的は故郷の公共施設の充実で、学校や病院の施設充実のために皆でお金を出し合っている。タンザニア本土とザンジバルの歴史上、なかなか政府からの社会インフラの予算は付きにくく、ザンジバル島基盤の野党もいろいろやってはくれるが如何せん野党である。他のイスラム国家からの援助などは全てタンザニア本土のイスラム団体本部に入る。タンザニア政府の意向もありそこからザンジバル島への援助は受けにくい。以前はタンザニア政府よりタンザニア本土のイスラム団体にモスクの建設のためムスリム用にあてがわれた土地の取引でかなりお金が回っていたらしいが、不正などもあり、現在はあまりお金が回っていないとのこと。よって無料だった学費や孤児院の運営が厳しくなってきたため、有力者・有志による資金援助が不可欠になってきている。

近隣者による助け合いの会

県人会のような同郷という縛りではなく、近隣者、友達同士、仕事仲間ですら一定期間お金を融通し合う、困った時は皆で助け合うという助け合いの会を作り参加している人たちがいる。

ママたちのある助け合いの会ではメンバーは友達同士10人。発足は親戚の葬式で集まった時に3人ほどで話し合い、自分たちも助け合いの会を発足させようということで始まり10人前後でお金を融通し合っている。特に公に登録はしていない、会則、委員会などもない。代表者が決まった期日にお金を集め必要な人に渡す。入会金はなし、月にTsh50,000(約2,500円)ずつ集め、経費のTsh5,000(約250円)を引いたTsh495,000(約24,750円)を毎月一人が受け取ることができる。葬式や病気など問題が起こった時に会から決まった金額が支給されることはない。基本的に集めたお金を毎月一人ずつ受け取っていただけなので、まとまったお金が手に入るが自分で積み立てたお金が手数料を取られて戻ってくるだけである。しかし、家賃の支払いや学費の支払いなどまとまったお金が必要になる時に合わせて自分がお金を受け取る順番をある程度調整することができるので金融機関から短期の借入れをするのに比べはるかに簡単で利子もない。ちなみにママたちは小口金融をかなり恐れている。色々な噂があり、家財道具一式持っていかれた人は結構いるらしい。





この会は3年も続いていて今回は3回目の途中だという。なぜみんな続けるのかと聞いたところ、一番の利点はある一定期間お金を皆で共有することにより困った時に手伝ってくれる友達を確保できることだという。葬式の際の資金的な困難もそうだが参列者の昼食準備など、絶対に手伝ってくれる友人が常時10人前後いるというのはかなり心強い。よって、一周回りその回が終わると誰からともなくまた始めようという声が上がってくる。

同じような形式で仕事仲間同士お金を融通しあう会もある。タクシードライバーが9人でやっている助け合いの会は入会金がTsh10,000(約500円)で、週に3回月・水・金にTsh10,000(約500円)ずつ集め、毎回Tsh90,000(約4,500円)を誰か一人受け取ることができる。ある程度、必要な時に合わせてまとまったお金が手に入るの、それなりに有効で人数の加減はあるが2年以上続いている。ただし、これはご近所さんの助け合いとは少し違い、会をまとめている古参のタクシードライバーの小遣い稼ぎも兼ねているように見える。入会金はすべてまとめ役に入り、順番もまとめ役がすべて決め、まとめ役の交代はない。半数は満足だろうが後の半数は義理で続けている感もある。

助け合い＋投資の会

ビジネスを始めるための資金集めに助け合いの会を立ち上げることもある。会員になり毎月一定金額の会費を会に支払うと葬式や病気などの問題が起こった時に会員から寄付を募ることができる。会からお金が支給されるのではなく、月例会で会員から寄付金を集めることが許される。会費は会が運営する。利益が出たら分配される。

アルーシャ出身者が多く所属するウシリキアノグループの月例会に参加した。入会に際してTsh5,000(約250円)を払えば誰でも入会可能で現在の会員は95人である。毎月最後の日曜日に会合が開かれ、その月の会計報告などが行われる。カリアコーにある中級ホテルの食堂(会議室)を借りて15時から17時まで2時間会議が開かれた。本日の議題の説明が行われ、経費の用途目的の説明、新会員の紹介、未回収会費の現状の説明が行われた。



ホテル(月例会会場)



月例報告





未回収会費の現状についてはかなり詳細に行われ、一人一人名前が呼ばれいくら未納かを発表していく。参加者からは支払いは済ませてあるといった意見や、金額が違うといった意見もあったが帳簿がすべてですということで、皆の前でしっかりと「お金を払え」と言われる。参加者は38名で過半数に達していないため規約の改定は採決されなかったが、主に会費の支払い遅延についての罰則改定について話し合いが行われた。罰則については会費を払えない者にこれ以上の支払いを課しても意味がないのではといった意見が多数を占めた。会費回収の際に間違いが起こらないようにお互いが納得いく証拠として携帯のテキストメッセージを使用するよう要求が上がった。最後に先月寄付金を募り、受け取った人たちからの報告と感謝の言葉が述べられた。今回は会員に寄付金を募る人はいなかったその現場は見ることはできなかったが、問題の大きさによって委員会で金額を決めその場で皆から集めるという。

月例会終了後、ウシリキアノグループ委員会のメンバーと話をした。会費の未納・遅延の問題は依然解決はせず、月例会や報告書作成のための経費はかかり、集めた会費の有効な使用手段が思い浮かばず非常に困っているという。今現在銀行口座にいくらあるので、この金額で何か始められるビジネスはないかと相談を受けた。今後行うであろうビジネスプランもなく、潤沢な資金があるわけでもない。ここから成功して利益を出して会員に還元していくのはかなり難しいと伝えた。

このグループは登録してあるため何か問題があれば解決するかどうかは別として訴えることはできるが、巷では似たようなグループが数多くあり、ほぼ、すべてが途中で発起人がお金を持って逃げてしまう。もともと登録もしていない口約束だけの助け合いグループは詐欺に近いものが多数ある。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。